２０２１（令和３）年度

第４学年

学 習 の 内 容 と 評 価

IB ワールドスクール　ユネスコスクール
スーパーサイエンスハイスクール
ワールドワイドラーニングコンソーシアム連携校

東京学芸大学附属国際中等教育学校

国語科　４学年　＜国語総合＞　　MYP　Language and literature

６か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

４学年の目標/伸ばしたい力

○文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて「読み取る力」。
○自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための「書く力」。
○自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に「聞き取る力」や「情報を整理する力」。
○聞き手の身になってよりわかりやすく伝えるための「話す力」。
○言語についての知識やそれを活用する技能。

規準 A　分析（Analysing）
- i.　テクストの内容や文脈、言語、構造、技法、スタイルと複数のテクスト間の関係について分析することができる。
- ii.　作者の選択が受け手に与える効果を分析することができる。
- iii.　例や説明、用語を用いて、意見や考えを正当化することができる。
- iv.　ジャンルやテクストにおいて、または複数のジャンルやテクストにわたって、特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価することができる。

規準 B　構成（Organizing）
- i.　文脈と意図に応じた組織的構造を使用することができる。
- ii.　意見や考えを持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理することができる。
- iii.　執筆のフォーマットを利用して、文脈や意図に適した体裁を作りだすことができる。

規準 C　創作（Producing text）
- i.　創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し、批判的に振り返りながら、洞察力、想像力、感受性を示すテクストを創作することができる。
- ii.　言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択することができる。
- iii.　アイディアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選ぶことができる。

規準 D　言語の使用（Using language）
- i.　適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用することができる。
- ii.　文脈と意図に適した言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話すことができる。
- iii.　正しい文法、統語法、句読法を用いることができる。
- iv.　正確に綴り・書き、発音をすることができる。
- v.　適切な非言語的コミュニケーション技術を利用することができる。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A　分析（Analysing）	定期テスト・レポートなど
規準 B　構成（Organizing）	定期テスト・レポートなど
規準 C　創作（Producing text）	定期テスト・作品など
規準 D　言語の使用（Using language）	定期テスト・小テストなど
	7 段階評価：観点別評価の合計を IB のバウンダリーと照合して決定します。

文部科学省　高等学校学習指導要領における教科の観点

観点１　関心・意欲・態度
観点２　話す・聞く能力
観点３　書く能力
観点４　読む能力
観点５　知識・理解

学習内容

教材は主に教科書を使用します。単元によっては別に教材や資料を配ります。次のような学習を行う予定です。

○評論
身近な例と抽象的な論理展開がどのように関わるのか、文脈に即して理解することを学ぶ。
接続語や指示語に注意しながら、論理の展開をつかむことを学習する。

○小説・随筆など
表現にそって登場人物の心の動きをたどり、作品全体の構造を把握することを学ぶ。
今を生きる人間と、その置かれた状況との関わりを正しく把握する。

○ 古文
古文を読むための基本的な力（文法を含む）を身につける。
日本の古典の代表的な作品（説話・随筆・物語）を読みながら、古典の文章に触れ、時代背景や当時の文化について知る。

○ 漢文
漢文を読むための基本的な力（訓点・基本句法を含む）を身につける。
中国古典の代表的な作品の中で短いものを中心に、まずは読むことに慣れる。
作品の舞台となった時代や場所について知り、内容の読解に役立てる。

社会科（地歴・公民科）４学年＜現代社会・ＩＭ現代社会＞MYP Individual and Societies

６か年を通した目標

○グローバル化が急速なスピードで進行している今日，国際社会の一員として，現代社会の課題に興味や関心を持つ。
○現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ，自分の言葉で論理的・批判的に考察し，他者に伝え説明する力を伸ばす。

４学年の目標/伸ばしたい力

４学年には２つの意味があります。一つはMYPの最終学年としての意味。もう一つは後期課程最初の学年としての意味です。

MYP最終学年としてはこれまで学習してきた社会科のまとめとして３学年で学習した「社会（公民分野）」の内容と関連させながら地理的・歴史的な視点を現代的な課題に活かせるような授業展開を行います。

後期課程の始まりの学年としては今後の地歴・公民科の学習に必要な基礎基本となる学習に対する論理的・批判的思考の訓練となるような授業展開を行います。

MYP 評価規準	評価方法
規準A　知識と理解 規準B　調査探究 規準C　コミュニケーション 規準D　批判的思考	A：　期末テスト、授業中の学習活動・まとめ、課題等から、公民的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。 B：　課題等から、明確なテーマ設定、論点の提示、異なる立場や複数のソースから情報収集がどの程度できたかを評価します。 C：　授業中の調査内容の発表、質疑応答等の様子から、学習内容や調査内容を創意工夫して再構成し、論点を整理してわかりやすく表現できたかどうかを評価します。 D：　期末テスト、授業中の学習活動・まとめ、課題等から、資料や社会的事象を分析し、異なる見解を整理した上で、どの程度適切に解釈したり評価したりできたかを評価します。 1学期・2学期の評価および学年の評定は、以上４つの規準による点数（各８点満点）を合計した点数（32点満点）を、MYPのIndividual and Societiesの点数換算にしたがって７段階で示します。なお，1学期・2学期の5段階評価および学年の5段階評定は、32点満点を第4学年地理歴史・公民科共通の換算表を用いて算出します。

学習内容

基本的には、教科書『高等学校　現代社会　新訂版』（清水書院）を使用します。

単元や必要に応じ、担当教員が作成した学習プリントを補助教材として用います。また、史料、年表、写真や映像資料等も活用します。

おもな学習内容は、以下のとおりです。

○現代の社会生活と青年
・大衆社会　・高度情報化社会　・青年期の発達課題
・社会の変化と青年　・労働と社会参加　・文化と青年

○現代の民主政治
・基本的人権と権利保障　・近代憲法の成立　・日本国憲法と人権　・新しい人権
・人権の国際化　・恒久平和主義　・統治機構　・世論とマスメディア
・政党政治と選挙　・地方自治

○民主社会と倫理
・近代国家の成立　・自由と責任　・生命倫理と環境倫理
・差別と平等　・法と道徳、社会規範　・他者との共生

○現代の経済生活と経済活動
・イノベーション　・高度情報化社会　・財政政策　・戦後日本経済史
・労働問題　・食糧農業問題　・企業の社会的責任

○国際社会と日本の役割
・国際経済と貿易　・南北問題と日本　・国連　・日本の国際協力
・日本の安全保障と防衛　・核兵器と国際軍縮　・わたしたちにできること

社会科（地歴・公民科）　４学年＜地理Ａ＞ MYP　Individual and Societies

６か年を通した目標

○　グローバル化が急速に進む今日，国際社会の一員として現代社会の課題に興味や関心を持つ。
○　今日的課題を地域で生きる自分の生活と結びつけ，多角多面的に考え，自分のことばで表現していく。

４学年の目標/伸ばしたい力

４学年には２つの意味があります。一つは MYP の最終学年としての意味，もう一つは後期課程最初の学年としての意味です。

まず，MYP 最終学年として１～３学年で学習した「社会」の内容と関連させながら，現代的な課題に活かせるような授業展開を行います。

後期課程の始まりの学年として，内容を地理学における「系統地理」分野を中心に学習します。以下の３つが地理Ａの目標です。

○世界の様々な地理的事象や地域的特徴を理解するために必要な地理的見方・考え方を身につける。
○世界と私たちとの間の様々な結びつきを見出す能力を身につける。
○様々な視点から物事を考える能力を身につける。

MYP 評価規準	評価方法
規準Ａ　知識と理解 規準Ｂ　調査 規準Ｃ　批判的思考 規準Ｄ　コミュニケーション	Ａ：　各学期実施の定期考査を中心に評価します。 Ｂ：１学期は統計地図を用いた課題，２学期は気候に関する課題，３学期は身近な地形に関する課題及びエネルギーに関する課題で評価します。 Ｃ：１学期は統計地図を用いた課題，２学期は気候に関する課題，３学期は身近な地形に関する課題及びエネルギーに関する課題で評価します。 Ｄ：各学期実施の定期考査に加えて，１学期は統計地図を用いた課題，２学期は気候に関する課題，３学期は身近な地形に関する課題及びエネルギーに関する課題で評価します。

学習内容

【１学期】

１．地球と地図
人類は世界を様々な方法で把握しようとしてきました。その把握の仕方がどのように発展し，どのような形で世界は把握されているのかを考えます。

２．気候
世界には様々な気候が存在しますが，それは地球の大気循環システムによって説明することができます。どのようなメカニズムで世界の気候が形成され，それによって人々はどのような文化を形成しているか，そのメカニズムのバランスが崩れた時にはどのようなことが起こってしまうのかを考えます。

【２学期】

３．地球規模の地形
地球規模の大きな地形の形成は，人類に様々な恩恵をもたらす半面，危険ももたらします。
地球規模の地形はどのように形成され,それは現代社会とどのように関連しているのかを考えます。

４．身近な地形
地形は風化，浸食され，削られた土砂は堆積する。その過程で新たな地形を作り出し，我々の生活と直接結びつく身近な地形となります。身近な地形はどのように形成され，それは我々の生活とどのように関連しているのかについて，フィールドワークなども利用しながら考えます

【３学期】

５．資源・エネルギー
資源・エネルギーの利用は地域や国家によって大きく異なりますが，そのエネルギー資源の利用に関して，大きな転換点を迎えています。世界各国の資源・エネルギー利用の特徴と共に，いかにして持続可能な資源・エネルギー利用をしていくのかを考えます。

数学科　４学年　＜数学Ⅰ／数学Ａ＞　MYP Mathematics

６か年を通した目標

６カ年を通して，次のことを目標とし，学習を進めます。

国際社会の一員として，適切に判断し行動できる人間になるために，
数学的リテラシーを育むとともに，数学に対する興味・関心を高め，豊かな感性を養う。

「数学的リテラシー（Mathematical literacy）」とは，たとえば，次のような力です。

- 様々な文脈において，数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり，数学的根拠に基づき意思決定する力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

授業では，この目標を実現するために，また，数学教育の国際的な動向に目を向け，本校独自のテキスト『TGUISS 数学』を使用しながら，次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を，数学の問題に直し，数学的に処理し，得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動
- 数学を使い，つくる活動

４年次では，「数学Ⅰ」（３単位，必履修）と「数学 A」（２単位，必履修）の２科目を開講します。それぞれ，『TGUISS 数学４』と通常の教科書を使用しながら，学習を行います。　なお，通常の教科書と『TGUISS 数学』との対応は，別表の通りです。

４学年の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき，継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において，数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり，数学的根拠に基づき意思決定する力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準	評価方法
規準 A　知識と理解 規準 B　パターンの探究 規準 C　コミュニケーション 規準 D　実生活への数学の応用	**規準 A　知識と理解** 数学の概念とスキル（技能）に関する理解について，筆記テストやレポート等を通して，評価します。 **規準B　パターンの探究** 様々な場面において，パターンを言葉や図，式等で表すことができ，筋道立ててその根拠を説明したり，結論を導いたりする力を，授業中の活動やレポート，筆記テスト等を通して，評価します。 **規準C　コミュニケーション** 適切な数学の記号と言語を用いて，事実，概念，手法，結果，結論を伝える力を，授業中の活動やノートやレポート，筆記テスト等を通して，評価します。 **規準D　実生活への数学の応用** 数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに，社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を，授業中の活動やレポート，筆記テスト等を通して評価します。

学習内容

『TGUISS 数学４』を使用しながら，次のような学習を行います。

数学Ⅰ

① **方程式と不等式**［４月～９月］

方程式と不等式についての理解を深め，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを利用できるようにします。また，方程式の解が存在するように数を拡張するとともに，数の概念についての理解を深められるようにします。

（主な学習内容）２次関数と２次方程式・２次不等式，複素数，等式の証明，不等式の証明

② **指数関数，対数関数**［９月～１２月］

これまでの性質を保つように指数を拡張するとともに，身近な事象を指数関数，対数関数を用いて考察，処理できるようにします。

（主な学習内容）累乗根，指数関数，対数関数

③ **統計基礎**［１月～３月］

集団としての意見や傾向を知るために行う全数調査や標本調査の利点と欠点，標本調査において信頼を得る方法，および，データの散らばりや相関を数値化する方法を理解し，具体的な事象の考察に活用できるようにします。

（主な学習内容）全数調査と標本調査，分布，分散と標準偏差，相関係数

数学Ａ

① **確率**［４月～６月］

ある事柄が起こる度合いを調べるために，シミュレーションを行うとともに，その観察を通して，確率の考えについて理解します。また，確率の基本的な法則を用いて，様々な事象の確率を求められるようにするとともに，確率を用いた判断ができるようにします。

（主な学習内容）確率とその基本的な性質，期待値，独立試行の確率，反復試行の確率，条件付き確率，確率の乗法定理

② **数列**［６月～１１月］

具体的な事象における逐次的な変化を，式を用いて表し，数学的に考察し処理できるようにします。

（主な学習内容）漸化式，数列の一般項と和，数学的帰納法

③ **整数の性質**［１１月～３月］

整数の性質についての考察を深め，事象の考察に利用できるようにします。

（主な学習内容）約数・倍数，余り，ユークリッドの互除法，不定方程式の整数解，N進法

※授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり，内容を加えたりする可能性があります。

別表

ISS数学科　カリキュラム対応表

学年	本校のカリキュラム	主な内容	学習指導要領	MYP数学
1	数の見方	整数	3年，数学A	○
		正の数・負の数	1年	○
	事象の見方	関数の考え	1年	○
		文字式	1，2年	○
		一次方程式	1年	○
	図形の見方	空間図形	1年	○
		投影図	1年	
		平面図形	1年	○
		球の体積，表面積	1年	○
	データの分析	データの収集	1年	○
		データの分布と分析	1年，数学Ⅰ	○
2	一次関数と方程式	比例	1年	○
		一次関数	2年	○
		一次不等式	数学Ⅰ	○
		連立方程式	2年	○
	平行と相似	平行四辺形	2年	○
		相似な図形	3年	○
		作図	1年	○
	図形の論証	三角形の合同条件	2年	○（上級）
		三角形の相似条件	3年	○（上級）
		四角形の性質	2年	○（上級）
		円の性質	3年，数学A	
	相関と回帰	相関	数学Ⅰ	○（上級）
		回帰	なし	○（上級）
3	三平方の定理と三角比	平方根	3年	○
		三平方の定理	3年	○
		三角比	数学Ⅰ	○
	いろいろな関数とグラフ	反比例	1年	○（上級）
		$y=ax^2$	3年	○
		べき乗関数	数学Ⅱ	
		二次関数	数学Ⅰ	○
		関数のグラフ	数学Ⅰ，Ⅱ	○
		二次方程式	3年	
	数え上げ	集合	数学Ⅰ，A	○
		場合の数	数学A	○（上級）
4	指数関数・対数関数	指数関数	数学Ⅱ	
		対数関数	数学Ⅱ，Ⅲ	
	方程式と不等式	方程式と不等式	数学Ⅰ，Ⅱ	○
		整式の除法	数学Ⅱ	○
		論理と代数的な証明	数学Ⅰ，Ⅱ	
	統計基礎	全数調査・標本調査	3年	○
		分布・分散	数学B	○
	確率	統計的確率	2年	○
		数学的確率	2年	○
		確率の基本的な性質	数学A，B	○
	整数の性質とその活用	整数の性質	数学A	
	数列	数列	数学B	○

理科　４学年　＜科学と人間生活＞　　MYP　Sciences

６か年を通した目標
自然に対する関心を高め、科学が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

４学年の目標/伸ばしたい力
科学と人間生活は、本校のＳＳＨ(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。また、IBMYP の以下の目標を身につけることを目指す。 A. 知識を身に付け、理解する。 B. 探究し、デザインする。 C. 情報を処理し、評価する。 D. 科学が与える影響を考察する。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A　知識と理解 規準 B 探究とデザイン 規準 C 手法と評価 規準 D　科学による影響の振り返り	実験の取り組み レポート等提出物 テスト

文部科学省　中学校学習指導要領における教科の観点
観点１　関心・意欲・態度 観点２　思考・判断・表現 観点３　観察・実験の技能 観点４　知識・理解

学習内容
・自然の見方と探究 ・地球と生物の変遷 ・自然と生物の多様性 ・環境と動物の反応 ・人間生活と地球環境の変化

理科　４学年　＜SS 生物基礎＞　　MYP　Sciences

６か年を通した目標

自然に対する関心を高め、生物のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

４学年の目標/伸ばしたい力

SS 生物基礎は、本校のＳＳＨ(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。また、IBMYP の以下の目標を身につけることを目指す。

A. 知識を身に付け、理解する。
B. 探究し、デザインする。
C. 情報を処理し、評価する。
D. 科学が与える影響を考察する。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A　知識と理解 規準 B 探究とデザイン 規準 C 手法と評価 規準 D　科学による影響の振り返り	実験の取り組み【規準 B、C】 レポート等提出物【規準 A、B、C、D】 テスト【規準 A、B、C、D】

文部科学省　中学校学習指導要領における教科の観点

観点１　関心・意欲・態度
観点２　思考・判断・表現
観点３　観察・実験の技能
観点４　知識・理解

学習内容

１．生物と遺伝子

ア　生物の特徴
（ｱ）　生物の共通性と多様性:生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解すること。
（ｲ）　細胞とエネルギー:生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解すること。

イ　遺伝子とその働き
（ｱ）　遺伝情報と DNA:遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解すること。
（ｲ）　遺伝情報の分配:DNA が複製され分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解すること。
（ｳ）　遺伝情報とタンパク質の合成:DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解すること。

ウ　生物と遺伝子に関する探究活動

２．生物の体内環境の維持

ア　生物の体内環境
（ｱ）　体内環境:体内環境が保たれていることを理解すること。
（ｲ）　体内環境の維持の仕組み
体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解すること。
（ｳ）　免疫:免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解すること。

イ　生物の体内環境の維持に関する探究活動

３．生物の多様性と生態系

ア　植生の多様性と分布
（ｱ）　植生と遷移
陸上には様々な植生がみられ，植生は長期的に移り変わっていくことを理解すること。
（ｲ）　気候とバイオーム気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解すること。

イ　生態系とその保全
（ｱ）　生態系と物質循環
生態系では，物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解すること。
（ｲ）　生態系のバランスと保全
生態系のバランスについて理解し，生態系の保全の重要性を認識すること。

ウ　生物の多様性と生態系に関する探究活動

理科　４学年　＜SS 地学基礎＞　　MYP　Sciences

６か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「地学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

４学年の目標/伸ばしたい力

SS 地学基礎は、本校のＳＳＨ(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。また、IBMYP の以下の目標を身につけることを目指す。

A. 知識を身に付け、理解する。
B. デザインし、探求する。
C. 情報を処理し、評価する。
D. 科学が与える影響を考察する。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A　知識と理解 規準 B 探究とデザイン 規準 C 手法と評価 規準 D　科学による影響の振り返り	課題研究や実験の取り組み【規準 B、C】 レポート等提出物【規準 A、B、C、D】 テスト【規準 A、B、C、D】 ディスカッション【A、D】

文部科学省　中学校学習指導要領における教科の観点

観点１　関心・意欲・態度
観点２　思考・判断・表現
観点３　観察・実験の技能
観点４　知識・理解

学習内容

１．固体地球（lithosphere）
　ア　地球の構成と内部エネルギー
　イ　地球の活動
　ウ　地球表層の水の動きと役割
　エ　地球の環境と生物の変遷
２．流体地球（atmosphere, hydrosphere）
　地球の大気と海洋
３．宇宙の構造(the universe)
　ア　太陽と太陽系
　イ　恒星の世界
　ウ　宇宙と銀河
４．地球の環境(environment)

保健体育科　４学年＜体育＞　MYP　Physical and Health Education

６か年を通した目標
国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに，健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

４学年の目標/伸ばしたい力
健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに，学習内容を十分に活用することができる。 運動の原則やルール，高度な戦術を考えることができる。 一連の動きや技の構成などが洗練され，美的でスムーズに展開するとともに，表現力豊かに運動することができる。 より複雑な運動に対して必要な技術を習得し，それを利用して課題解決を図ったり，他者にも示したりすることができる。 個人やグループで，優れた作戦や戦術を使って攻防したり，挑戦したりすることができる。 他者との連携を図るために，協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに，効果的なコミュニケーション力を発揮しようとすることができる。 学習カードの提出等，決められた約束を守ったり，他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。 各運動種目における専門的な知識を深めながら技能を高めることができる。 種目選択においては技術的な向上だけでなく，各競技を運営していくための能力を養うことができる。

MYP 評価規準	評価方法
規準Ａ　知識と理解	期末テスト，課題やレポート等
規準Ｂ　活動の計画	身体パフォーマンスと健康を改善するための計画の策定，計画書の記入
規準Ｃ　応用と実践	運動技能の合理的な実践と応用能力
規準Ｄ　活動の振り返りと改善	学習カードなどの記録の提出，取り組み等

学習内容
① 体つくり運動／スポーツテスト：４月～５月 ② 球技Ⅴ（男子：サッカー／ソフトボール）（女子：バスケットボール）：５月～６月 ③ アクアティックスポーツⅣ：７月～９月 ④ 器械運動Ⅲ：９月～１０月 ⑤ 球技Ⅵ（男子：バスケットボール）（女子：バレーボール）：１１月～１２月 ⑥ 柔道Ⅱ（男子）／ダンス（女子）：１月～３月

※公開研究会等の都合により，学習の順番が前後することがあります。

保健体育科　４学年＜保健＞　MYP　Physical and Health Education

６か年を通した目標	
国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ，健康・安全についての理解を通して， 自身の健康を保持増進する能力の育成をめざす。健康に関する基礎や応用を学び，明るく 豊かな生活を営む態度を育てる。	
４学年の目標/伸ばしたい力	
心身の健康を保持増進するために必要な知識を身につけ，その概念を十分に理解したうえで実生活に結びつける能力。 健康に関する学習過程を検討した上で，それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚して果たす能力。 他者との連携を図り，協力や責任力を持って行う力。コミュニケーション力を発揮しようとする力。レポートなどの提出物等決められた約束を守る力。	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準Ａ　知識と理解 規準Ｄ　活動の振り返りと改善	期末試験　課題（提出物）の内容 ノートの提出・レポートの記述内容・取り組み等
学習内容	
① 体のつくりと働き（４月） ② 健康の考え方（５月～６月） ③ 健康の保持増進と疾病の予防・精神の健康（９月～１２月） ④ 交通安全・応急手当（１月～３月）	

保健体育科　４学年〈ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ〉MYP　Physical and Health Education

６か年を通した目標	
国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに，健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。	
４学年の目標/伸ばしたい力	
雪環境に接し，スキーという用具を活用しながら，自然と関わる知識や技能を習得することにより自らを高める喜びを体験し，生涯にわたりスポーツと自然に親しむ技能と態度を育成する。 運動習得を目的とする共同生活を経験することで集団と個の関わりを学び，協調性と社会性を身につける。	
MYP 評価規準	**評価方法**
規準Ａ　知識と理解	課題やレポート等
規準Ｂ　活動の計画	身体パフォーマンスと健康を改善するための計画の策定，計画書の記入
規準Ｃ　応用と実践	運動技能の合理的な実践と応用能力
規準Ｄ　活動の振り返りと改善	学習カードなどの記録の提出，取り組み等
学習内容	
2021 年１月 12 日～15 日 志賀高原スキー場で３泊４日の実地研修 午前・午後のスキー実習・夕食後ミーティング・学習会	

芸術科　４学年　＜音楽Ⅰ＞　MYP　Music

６か年を通した目標

国際社会の一員として必要となる豊かな情操を養っていくために、表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、創造的な音楽性を培う。

４学年の目標/伸ばしたい力

1　音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
2　多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
3　多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A　知識と理解	(A) ワークシート・作品のリサーチ 主に授業中の学習内容を確認するプリントと、単元で扱っている主要な楽曲に対する調査（リサーチ）が評価の対象となります。
規準 B　技能の発展	(B) 歌唱テスト・編曲作品提出・器楽演奏 実技によるスキルの達成度の評価と、リズムなども含む作曲作品の提出で評価します。また、基礎的な実技はもちろん、即興的な演奏や高度な旋律の演奏なども評価します。
規準 C　創造的思考	(C) プロセスノート・ディスカッション 基準 B の作品などの、取り組み始めから完成までのプロセス、あるいは、具体的にどのような作品（ゴール）にしようかという議論の記述を評価します。 楽譜によるプロセスはもちろん、DTM などの電子媒体での作成も評価対象です。
規準 D　鑑賞	(D) グループワーク・相互評価 互いの作品や演奏に対して客観的に鑑賞し、相互に評価をします。 また、鑑賞作品の学習やディスカッションをふまえながら、単元の探究の問いに対してレポート形式で答えていきます。

学習内容

＜歌唱＞

４部合唱から５、６部合唱の響きへと、相互の表現力を高めていきます。また、洋楽をアレンジしたものや、西洋音楽の伝統的な合唱、黒人霊歌などに取り組み、和声的なテンションの方向性も意識しながら取り組んでいきます。２学期には編曲とアンサンブルの単元を通じて、声を含む楽器の役割や組み合わせを意識しながらアンサンブルに挑戦し、３学期には和太鼓演習を通して、即興的な表現の追求をします。

・ハーモニー学習

クロースハーモニーの表現方法を理解し、声による高度なアンサンブルに取り組みます。

・楽曲分析に基づく表現の学習 / グループアンサンブル

自身の持つ音楽的感性や表現能力をアウトプットするために、グループで編曲活動をし、アコースティックなアンサンブル（演奏）をおこないます。自己表現方法を追求しながら、グループでの演奏への理解を学習します。

＜鑑賞＞

音楽を通した表現に関する作品について鑑賞力を高めていきます。

音楽素材を十分に活用した近・現代の作品や、音楽史にかかわる鑑賞、また、互いの演奏を鑑賞することを通して鑑賞力を高めていきます。

＜器楽＞

和太鼓演習を通して、基礎的なリズム、八丈太鼓の奏法を学習します。また、短い和太鼓曲の創作を含む、即興的なリズムの演奏を中心に学習してきます。

芸術科　４学年　＜美術Ⅰ＞　MYP Visual Arts

６か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

４学年の目標/伸ばしたい力

美術科では６年間を３段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。３つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。（４年次は選択必修）

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

４年生は様々な表現に触れながら、豊かな感性や創造する力を伸ばす時期と捉え、授業を展開していきます。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A　知識と理解	The arts process journal (APJ)、レポート
規準 B　技能の発展	表現活動、作品
規準 C　創造的思考	APJ、レポート、ディスカッション
規準 D　鑑賞	APJ、レポート、鑑賞活動

学習内容

１学期

４～７月

絵画・鑑賞　作品を制作・鑑賞しながら、構図や描写を探究します。

（主な学習内容・活動内容）スケッチ、油絵具の使い方、構図、形や質感をとらえる、鑑賞

２学期

９月

映像メディア表現・鑑賞　映像メディアの表現について学習し、それらの表現の特性や効果を考察します。

（主な学習内容・活動内容）映像メディアを用いた表現、色光、視点、動き等の工夫、鑑賞

１０～１２月

デザイン　目的や計画をもとにした表現を通じて、視覚伝達や環境等に関するデザインの学習をします。

（主な学習内容・活動内容）平面または立体のデザイン、目的、機能、美しさを考えた表現、鑑賞

３学期

１～３月

絵画・鑑賞　様々な表現を創造する理由や課程、その結果について探究し表現します。

（主な学習内容・活動内容）表現技法研究、創造の過程と結果について、鑑賞

＊行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。

芸術科　４学年　＜書道Ⅰ＞　　MYP　Arts

３か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

４学年の目標/伸ばしたい力

４年生の芸術書道は、書道における基礎的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学び、豊かな芸術表現活動ができるようにします。書の様々な表現に触れながら、書道史や芸術、文化にも視野を広げ、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A　知識と理解 規準 B　技能の発展 規準 C　創造的思考 規準 D　鑑賞	学習した芸術的な内容や理論的根拠などに関する知識や理解について、授業ごとのワークシートやレポートなどを通じて評価します。 芸術を表現とコミュニケーションの一形態として活用できる力や、発想や主題を構成して具体化する力、作品と作品制作を行う過程などを通じて評価します。 書の表現に必要な基本的なスキルと適切な用具用材の扱い方なども評価します。 自分の作品について充分考えることができたか、発想を自己の技術により具体化するだけでなく、作品制作の過程においても十分な工夫ができたか、またふり返りとフィードバックできたかを学習活動やワークシートを通じて評価します。 制作期限を守って作業をしたか、前向きな制作環境を作って作業したか等についてもワークシートや授業態度などを通じて評価します。 作品の自己評価や他者との相互評価を行い、それらを作品制作に生かせたか、なども評価します。古典や他者の作品を鑑賞することにより、書文化全体への興味・関心を深めることができたかをワークシートやレポート、授業態度などを通じて評価します。

学習内容

【１学期】
●書写から書道
用具・用材の理解とその準備／書写と書道の共通点と相違点／「書写」の復習・筆使いの基本
●漢字の書の学習
書体の成立と楷書の書風比較／臨書学習①「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」
臨書学習②「雁塔聖教序」「自書告身」／臨書学習③「牛橛造像記」「鄭義下碑」
創作作品制作（楷書）／実用書（うちわに書く）
行書の特徴と書風比較／臨書学習④「風信帖」臨書学習⑤「蘭亭序」

【２学期】
●漢字の書の学習
臨書学習⑤「蘭亭序」／創作作品制作（行書・草書）
●仮名の書の学習
仮名の成立／仮名の用筆／仮名の字源・変体仮名・連綿
臨書学習①「蓬莱切」／臨書学習②「高野切第三種」／散らし書き
創作作品制作（散らし書き）／実用書（年賀状）

【３学期】
●漢字仮名交じりの書の学習
漢字と仮名の調和、書く言葉の内容と表現の関係／古典を生かした表現／創作作品制作

外国語科　４学年　＜英語４Core＞　　MYP　Language Acquisition

６か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

４学年（C）の目標/伸ばしたい力

４年次は、前期課程で身につけた知識の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。
既習の語彙・文法を活用しながら、話す･聞く･読む･書く力を総合的に訓練します。聞く・読む活動から、情報を得て、まとめ、分析して話す・書く力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

At the end of phase 3 (Capable Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Listening

At the end of the capable level, students should be exposed to a wide variety of simple and some complex authentic spoken multimodal texts and be able to:
i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
ii.analyse conventions
iii. analyse connections.

Criterion B: Reading

At the end of the capable level, students should be exposed to a wide variety of simple and some complex authentic written multimodal texts and be able to:
i.identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
ii.analyse conventions
iii.analyse connections.

Criterion C: Speaking

At the end of the capable level, students should be able to:
i.use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
iv.during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

Criterion D: Writing

At the end of the capable level, students should be able to:
i.use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and complex cohesive devices
iv.communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context.

MYP 評価規準　Phase 3	評価方法
規準A　リスニング	テスト
規準 B　リーディング	テスト
規準 C　スピーキング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
規準D　ライティング	作文、文法問題、エッセイ、テスト

学習内容

教科書の学習内容を踏まえて､英語を使って自分の意見を根拠とともに発信する学習を中心に行います。さらに語彙や表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。
偉人、世界の歴史文化、環境、さまざまな言語、平和問題、人生哲学、宇宙

外国語科　４学年　＜英語４Basic＞　　MYP　Language acquisition

６か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

４学年（B）の目標/伸ばしたい力

４年次は、前期課程で身につけた知識の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。
既習の語彙・文法を活用しながら、話す･聞く･読む･書く力を総合的に訓練します。聞く・読む活動から、情報を得て、まとめ、分析して話す・書く力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

At the end of phase 3 (Capable Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Listening

At the end of the capable level, students should be exposed to a wide variety of simple and some complex authentic spoken multimodal texts and be able to:
i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
ii.analyse conventions
iii. analyse connections.

Criterion B: Reading

At the end of the capable level, students should be exposed to a wide variety of simple and some complex authentic written multimodal texts and be able to:
i.identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
ii.analyse conventions
iii.analyse connections.

Criterion C: Speaking

At the end of the capable level, students should be able to:
i.use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
iv.during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

Criterion D: Writing

At the end of the capable level, students should be able to:
i.use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and complex cohesive devices
iv.communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context.

MYP 評価規準　Phase 4	評価方法
規準A　リスニング	テスト
規準 B　リーディング	テスト
規準 C　スピーキング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
規準D　ライティング	作文、文法問題、エッセイ、テスト

学習内容

教科書の学習内容を踏まえて､英語を使って自分の意見を根拠とともに発信する学習を中心に行います。さらに語彙や表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。
偉人、世界の歴史文化、環境、さまざまな言語、平和問題、人生哲学、宇宙

外国語科　４学年　＜英語４Advanced＞MYP　Language Acquisition

６か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

４学年（A）の目標/伸ばしたい力

４年次は、上記の目標を実現するための認知的能力を身につける学年と位置づけています。
英語で様々なトピックについて学んで行くことを通して、単なる知識の理解にとどまらず、蓄積した知識を分析、統合していく力を育成します。

At the end of phase 5 (Proficient Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Listening

i.identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
ii.analyse conventions
iii.analyse connections.

Criterion B: Reading

i.identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
ii.analyse conventions
iii.analyse connections.

Criterion C: Speaking

i .use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
iv.during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

Criterion D: Writing

i.use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
iv.during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

MYP 評価規準　Phase 5	評価方法
規準A　リスニング	テスト
規準 B　リーディング	テスト
規準 C　スピーキング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
規準D　ライティング	作文、文法問題、エッセイ、テスト

学習内容

新聞、インターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。時事、政治、文化、環境、人権、社会、生命倫理、戦争と平和、エネルギー、経済、メディア

外国語科　４学年　＜英語表現Ⅰ Basic / Core＞

６か年を通した目標

言語学習が目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。

４学年の目標/伸ばしたい力

４年次では、英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力やディスカッションする力を身につけていきます。５年次に行われる海外ワークキャンプに必要な多様なスキルを身につけます。

At the end of phase 3 or 4 (Capable Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Speaking

At the end of the capable level, students should be able to:
i.use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
iv.during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

Criterion B: Writing

At the end of the capable level, students should be able to:
i.use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and complex cohesive devices
iv.communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context.

MYP 評価規準　Phase 4/3	
規準 A　スピーキング 規準 B　ライティング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー 作文、エッセイ、テスト

学習内容

英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。社会科、数学科、理科、芸術など他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。

使用予定教材

- Reading Explorer 2(Core) / 3(Basic)

４年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

外国語科　４学年　＜英語表現Ⅰ Advanced＞

６か年を通した目標

言語学習が目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。

４学年の目標/伸ばしたい力

４年次では、英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力やディスカッションする力を身につけていきます。５年次に行われる海外ワークキャンプに必要な多様なスキルを身につけます。

At the end of phase 5 (Proficient Level), students should be able to do the following in simple and some complex authentic texts:

Criterion A: Speaking

i .use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
iv.during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

Criterion B: Writing

i.use a wide range of vocabulary
ii.use a wide range of grammatical structures generally accurately
iii.use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
iv.during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

MYP 評価規準　Phase 5	
規準 A　スピーキング 規準 B　ライティング	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー 作文、エッセイ、テスト

学習内容

英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。社会科、数学科、理科、芸術など他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。

４年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

外国語科　４学年　国際教養群　　MYP　Language Acquisition
＜英語以外の言語：
フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国朝鮮語＞

６か年を通した目標

国際教養の科目として、多文化理解を深め、コミュニケーションスキルを育成し、英語以外の言語の言語能力の獲得を目指します。

４学年の目標/伸ばしたい力

国際教養の科目として、母語としての MYP 言語 A（国語）および付加的言語としての MYP 言語 B（英語）に加えて、MYP の３つの基本概念のひとつである多文化理解を深めるために、英語以外の言語の初級の言語能力の獲得を目指します。

At the end of phase 1 (Emergent Level), students should be able to do the following in simple authentic texts:

Criterion A: Listening

i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)

ii. analyse conventions

iii. analyse connections

Criterion B: Reading

i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)

ii. analyse conventions

iii. analyse connections

Criterion C: Speaking

i. use a wide range of vocabulary

ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately

iii. use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner

iv. communicate all or almost all the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

i. use a wide range of vocabulary

ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately

iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and some complex cohesive devices

iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

MYP 評価規準　Phase 1	評価方法
規準A　リスニング 規準 B　リーディング 規準 C　スピーキング 規準D　ライティング	テスト テスト スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー 作文、文法問題、エッセイ、テスト

学習内容

各言語の基本的な発音、語彙、文法を学び、話す、聞く、読む、書く力を総合的に学びます。また各言語圏の文化の理解を深め、コミュニケーション活動を通して、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

フランス語

教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルの文法を学びながら、日常会話を中心にコミュニケーション活動のためのフランス語習得を目指します。

また、フランス語圏の国々の文化への興味・関心の育成を目指します。

スペイン語

教科書と講師オリジナルのプリントを使用して、基本から初級レベルの文法を学びながら、すぐに役立つ日常会話も学びます。

ここでのスペイン語学習のモットーは「楽しく新しい言語を学ぶ」ことです。

映像や音楽を通して、スペイン語圏の文化や暮らしを学ぶことを大切にして学習を進めていきます。

ドイツ語

ドイツ語の基本から初級レベルの知識、日常表現の習得を目指します。授業ではＣＤやＤＶＤ教材なども使用し、実際にドイツ語を使う場面を想定した練習をしたいと思います。

音楽や文学、スポーツなど、ドイツ語圏の文化にも触れる予定です。

中国語

教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルのコミュニケーションのための中国語を勉強しながら、中国及び中国語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。

韓国/朝鮮語

教科書とプリント教材を使用し、基本から初級レベルのコミュニケーションのための韓国/朝鮮語を勉強しながら、その言語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。

外国語科　４学年　＜Global Issues＞　国際教養群

６か年を通した目標

４年次（２単位）と５年次（２単位）で英語で様々な地球規模の今日的課題について学び、考え、自分の意見をまとめる力をつけることを目標とします。

４学年の目標/伸ばしたい力

知識と概念を理解し、それらを様々な社会的、文化的、歴史的、個人的な文脈において活用できる力と、コミュニケーション能力の育成を目指します。

評価規準	評価方法
規準 A　知識と理解 規準 B　調査研究 規準 C　コミュニケーション 規準 D　批判的思考	インタビュー、ワークシート、作品、テスト スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、ディスカッション

学習内容

以下のようなトピックを、じっくり時間をかけて多角的に取り扱うことを予定しています。

国際政治、国民国家、時事問題

情報科　４学年　＜情報の科学＞　　MYP　Design

４学年の目標/伸ばしたい力

情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに，情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ，情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。

規準 A　探究と分析
- i. 指定されたクライアントやターゲットに対し、問題解決の必要性について説明し、正当化する
- ii. 詳細な調査計画を構成し、自分の力で、問題解決を進展させるのに必要な第 1、第 2 の調査を証明し、優先順位を立てる
- iii. 問題解決の調査を促す従来製品の類を詳細に解析する
- iv. 詳細な設計概要（デザインブリーフ）を発展させ、関連調査の解析を要約する

規準 B　アイデアの発展
- i. 詳しい設計仕様を発展させ、調査や解析を基に解決策の設計のための成功基準を説明する
- ii. 適切なメディアと詳細な注釈を使った実行可能なデザインアイデアの範囲を発展させ、他者から正しく理解される
- iii. 選んだデザインを発表し、設計仕様に関して詳しく、その選択を完全で批判的に正当化をする
- iv. 正確で詳細な計画図を発展させ、選んだ解決策の創作のために必要なことの要点をまとめる

規準 C　課題解決
- i. 論理的で詳細な計画を作成し、リソースと時間の効果的な使用について記述し、ペアがソリューションの創作に十分従うことができている
- ii. ソリューションを作るときに優れた技術を示している
- iii. ソリューションの創作計画に従い、所定の役割を果たし、適切に示す
- iv. ソリューション創作時に選んだデザインや計画の変更点を完全に正当化する

規準 D　評価
- i. ソリューションの成果を判断するため、詳細な関連したテスト方法を設計し、データを生成する
- ii. 根拠ある製品テストを基に、設計仕様書から離れてソリューションの成果を批判的に評価する
- iii. ソリューションをどのように改善したか説明する
- iv. 顧客／ターゲット層に対し製品の影響について説明する

評価規準	評価方法
規準 A：探究と分析 規準 B：アイデアの発展 規準 C：課題解決 規準 D：評価	1 学期は、座学が主体になりますのでテストを評価規準にします。 2 学期は、テストと課題での評価となります。 3 学期は、課題での評価になります。

学習内容

１．学習内容

①　コンピュータと情報の処理
コンピュータにおいて，情報が処理される仕組みや表現される方法を理解させる。

②　情報通信ネットワークの仕組み
情報通信ネットワークの構成要素，プロトコルの役割，情報通信の仕組み及び情報セキュリティを確保するための方法を理解させる。

③　情報と問題解決
情報と情報手段を活用した問題の発見と解決に関する基礎的な知識と技術を習得させ，適切に問題解決を行うことができる能力と態度を育てる。

④　アルゴリズムとプログラム
アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得させ，実際に活用する能力と態度を育てる。

国際教養　４学年　＜総合的な学習の時間＞MYP　Personal Project

６か年を通した目標

〈国際理解〉
自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。
〈人間理解〉
社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考えられる力、思いやる心を身につける。
〈理数探究〉
身の回りや世の中の様々な事象を、科学的視点からとらえ、社会に活用していく方法について考える。

4 学年の目標/伸ばしたい力

〈4 年国際教養全体〉
自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、課題について調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。

〈Personal Project〉
・プロジェクトを遂行し発表するために、個人的な能力やスキルを発揮する。
・特定のトピックや論点に関して個人的な探究、行動、振り返りに取り組む。
・グローバルな文脈に焦点をあて、これについての理解をプロジェクトをとおして証明する。
・学習を振り返り、知識、見解や意見を共有する。

MYP 評価規準	評価方法
〈Personal Project〉合計 32 点満点・7 段階 規準 A　調査（8 点） 規準 B　計画（8 点） 規準 C　行動（8 点） 規準 D　振り返り（8 点）	Personal Project は ・プロポーザル ・プロセスジャーナルの抜粋 ・レポート（９月提出） ・完成作品（９月提出） ・自己評価（９月提出） ・出席状況・取り組み状況 を材料として、評価します。

文部科学省　高等学校学習指導要領における教科の観点

学習指導要領では総合的学習の時間については数値による評定を行いませんので、観点は特に設けません。上記の目標や MYP の評価規準を参考にして学習を行ってください。
通知表には MYP の観点別評価（各 8 点）・7 段階評価の他に、どのような研究を行ったかがスーパーバイザーによるコメントとして記載されます。
履修や単位の修得に問題が生じる場合は、コメントもそのように記載されます。

学習内容

Personal　Project
・MYP の学習の集大成として Personal Project に取り組む。
・社会にどう役立つのかを考えて課題を設定し、自分の力で調査し、分析し、作品やレポート、プロジェクトという形にする。

国際教養　１～６学年　＜国際１～６＞

６か年を通した目標

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて，多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また，課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし，その解決に向けて仮説を立てたり，調査のために様々な方法を実践したり，得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに，考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ，表現し，異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに，多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら，自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

ここで国際理解・人間理解・理数探究とは，現代的な諸課題を見る３つの視点である。

○　国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて，多様な文化・社会の在り方について理解を深める。
○　人間理解…社会を支える一員として，学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え，思いやりの心を身につける。
○　理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え，社会に活用していく方法について考える。

各学年の目標/伸ばしたい力

〈1 年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち，それらに対しての耐性を養う。
〈2 年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ，他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
〈3 年〉様々な現代社会の課題について情報を集め，自分たちとその課題の関わりについて考え，異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
〈4 年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ，調査・探究し，現実の社会に自らアプローチする。
〈5 年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し，英語でディスカッションすることができる力を身につける。
〈6 年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また，母語でも外国語でも，異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し，相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

MYP 評価規準	評価方法
総合的な学習の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はありません。	各学年の国際教養の時間，国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。

文部科学省　中学校・高等学校学習指導要領における教科の観点

各学年で開設されている「国際〇」の時間は，学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程），「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では，数値による評価・評定は行われず，記述による評価がなされます。

国際教養群に入っている各教科の科目に関しては，前期・後期とも各科目で観点を設け，数値による評価・評定を行っています。

〈規準例〉
□LE（外国語科）：規準 A　知識と概念　／　規準 B　プレゼンテーション
□情報：規準 A　課題に対する思考・判断　／　基準 B　課題に対する関心・意欲・態度
□Global issues：規準 A　知識と理解　／　規準 B　調査研究　／　基準 C　コミュニケーション　／　基準 D　批判的思考
□英語以外の言語：規準 A　リスニング　／　基準 B　リーディング　／　基準 C　コミュニケーション　／　基準 D　言語の使用
□国際 B（College prep）：規準 A　Knowledge, Concepts and Personal Engagement with Learning　／　基準 B　Test-taking Language, Skills and Improvement

国際教養群に含まれる科目・学習内容

1 年　「国際１（情報，理数探究）」，「Learning in English 1」
2 年　「国際２」，「Learning in English 2」
3 年　「国際３」，「Pre Immersion」，「Learning in English 3」
4 年　「MYP Personal Project／課題研究」，「Global Issues」，「英語以外の言語」
5 年　「課題研究」「Global Issues」「英語以外の言語」
6 年　「課題研究」「国際 A（講座：憲法と人権・講座：国際協力と社会貢献）」「国際 B（講座：文学探究・講座：応用数学・講座：College Prep・講座：ファシリテーション実践）

上記の科目・総合的学習の時間の他に、1・3・5 年のワークキャンプⅠ・Ⅱ（国内）・Ⅲ（海外）・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1 年から 3 年では、4 年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動をします。さらに、5・6 年の「課題研究」は、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。